

天津市におけるゴルフアカデミーの実態に関する考察 —フィールドワークを通じた社会学的調査—

スポーツ文化研究領域

5022A050-3 秦 漢松

研究指導教員: 中澤 篤史 教授

【序章】

2007年、中国ゴルフ協会とHSBCは協力し、中国のジュニアゴルフを学校に普及させる目的で「学校ゴルフ」という計画を挙げられた。小中学校にゴルフコースを整備することで、より多くの子どもたちが教室の内外でゴルフを学べるようになる。現在、「学校ゴルフ」は深セン、北京、天津、上海、雲南、などの市で実施されている。「学校ゴルフ」は国家体育総局が青少年にゴルフを普及させるための構成要素の一つにもなっている。

騰(2013)は、海外の小中学校では、ほとんどがアカデミーでゴルフ授業を実施しており、経済とともにゴルフ産業も急速に発展しているため、ゴルフ研修施設や場所は十分になる。そういう状況を参考にして、中国の学校でいかにゴルフを展開するかについて、学校はゴルフクラブ、アカデミーと連帯することも必要があるも述べられる。なお、施(2022)は南京ゴルフ中小学連盟学校参加の学校に学校ゴルフ実態をアンケート調査を行い、多くの学校はゴルフを放課後に自由参加の選択科目として設置し、わずか二つの学校でゴルフを必修科目にする、さらに教員の半数以上が体育連盟およびゴルフアカデミーから提供される外部講師であるという現状が指摘される。これらの連携するプロセスには、学校ゴルフを実施する際にゴルフアカデミーは不可欠な役割を果たすことがわかる。し

かし、ゴルフアカデミーは学校と連携、ジュニアプレイヤーを育成する意思はあるものの、運営実態はまだ不明である。従って、本研究では天津市におけるゴルフアカデミーの実態はどうなっているかを考察していくことを目的とする。目的を達成するために、以下の5点を課題とする。課題一: 歴史から見ると、中国ゴルフはどのように展開していたか。課題二: 天津市ゴルフアカデミーは運営実態と授業形式はどのようになっていたのか。課題三: コロナはゴルフアカデミーにどのように影響を及ぼしたのか。課題四: 政策はゴルフアカデミーにどのように影響を及ぼしたのか。課題五: ゴルフアカデミー責任者の観点から、天津におけるゴルフアカデミーはどのような問題があるか。

【第1章】

第1章では課題一を解決するために、新中国成立前後の時期を起点として、中国におけるゴルフの受容過程と現状について概観した。その結果、1949年の新中国成立以前は租借地時代であり、ゴルフが外国人を通じて中国に伝わったこと、1984年代からのゴルフ黎明期にゴルフ場の建設が進み、中国におけるゴルフが投資手段として発展してきたことが明らかになった。2004年から2013年にかけてゴルフ場の数は178カ所から521カ所へと増加し、ゴルフの全盛期を迎えた。しかし、2012年から2015

年にかけての過剰建設と政策の影響で111のゴルフ場が撤去され、残存するゴルフ場は赤字に陥った。2016年以降は、ゴルフ協会や体育局の取り組みにより、ジュニア向けの大会や政策が急増している。

【第2章】

第2章では課題二の天津市アカデミーの運営実態を明らかにする。まず、天津市におけるゴルフアカデミーの所在地を分析する。その結果、天津市には25のゴルフアカデミーが存在し、主に南開区、西青区、濱海新区に位置していることが判明した。アカデミーの運営形態は大きく2つに分けられ、一つは独立したインドアスタジオで室内のゴルフスイング機械を用いた指導を行うタイプ、もう一つはゴルフ練習場と連携して運営されるタイプである。多くのアカデミーは生徒数の拡大を目指し、複数の校舎を設立している。かつフィールドワークを行い、数校の授業実態も明らかにされた。

【第3章】

第3章では課題二の授業内容や課題三、四、五を明らかにする。具体的に中国ゴルフアカデミーに対するコロナによる影響、政策による影響およびアカデミー問題を明らかにすることを目的とした。その結果、以下の点が示される。

①天津市のアカデミーは「興味中心」、「明確な目標」、「選抜制度」という授業形式の特徴が明らかにされた。

②コロナ期間中、ゴルフコースは人を集中することを避けられるために、ゴルフコースでの授業が可能であった。そのため、アカデミーには大きな影響がなかったと考えられる。逆に、コロナが蔓延した時よりも、回復期の方が困難であることが明らかになった。

③政策面では、「ゴルフ場の撤去」や「CGA能力検定試験」などのネガティブな影響がある一方で、「学校ゴルフ」、「ゴルフ推薦」、「ジュニア大会」などジュニアへのゴルフ普及のチャンスも存在する。特に「学校ゴルフ」では、私立学校や国際学校の学生と保護者のゴルフに対する認識度が高く、ゴルフアカデミーは公立学校との連携よりも私立、国際学校との緊密な連携を進めている。

④インタビュー調査を通じて、ゴルフアカデミーでの技術と学歴の両立の難しさや、コーチのコミュニケーション能力の欠如など、様々な問題が把握された。

【結章】

最後に、以上のデータを基いて、天津におけるゴルフアカデミーの現状を考察する。

【主要文献】

- ・青木清隆(1996)中央大学におけるゴルフ授業の現状について:経済学部 展開を中心に(授業の実例). 大学体育(3):78-83.
- ・石原端子(2017)ゴルフ授業に関する研究動向と今後の展望, 沖縄大学人文学部紀要(19):45-52.
- ・井上透(2010)韓国におけるプロゴルファーの強化・育成に関する研究, 早稲田大学卒業論文集(2010):42-45.
- ・片山健二, 八代勉(2004)ゴルフ練習場及びゴルフ場の社会的責任・役割と経営戦略. 東亜大学紀要(3):4-5.
- ・施冷清(2022)南京市中小学校園高爾夫運動提升策略研究. 南京体育学院 2022:32-36.
- ・騰ル陽(2013)深シン市中小學開展高爾夫運動的可行性研究. 東北師範大学 2013:12-1